

⑦

だけど、くじけない

1 主 題 3.11から考えよう

2 主題・教材について

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災は、多くの人の命や生活を奪った。加えて、福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染は、福島に関わりがあるというだけで、差別したり排除したりする風潮を生み出し、震災で傷ついた人々をさらに傷つけ苦しめている。

この教材は、写真家の長倉洋海さんが撮影した福島の子どもたちの写真と子どもたちが綴った言葉で構成されている。長倉さんは、2011（平成23）年9月から4か月にわたり、被災した東北の子どもたちの日常をカメラに収めてきた。子どもたちの笑顔の奥にある切なさや悲しみ、つらさを乗り越えるたくましさ、他の人を思いやる優しさを、写真を通して伝えたいという思いからである。これらの写真や言葉に込められた子どもたちの思いや願いを想像し、そうした思いに共感する態度を培いたい。とりわけ、放射能汚染の問題がいつ解決されるか、先の見えない状況の中で暮らす子どもたちの苦しみを福島の人だけのものとせず、一人一人にしっかりと考えさせたい。

また、3月11日を境に、まちや自然の様子、生活が一変し、差別とは無縁に暮らしていた人々が福島第一原発事故により差別や排除を受けるようになった事実を通して、差別や排除を生み出す構造とその不合理を理解させ、だれもが豊かに暮らせる社会を創造する力としたい。

（関連教科・領域：社会、道徳、総合的な学習の時間）

3 ねらい

- ・東日本大震災について知るとともに、そこに暮らす人たちに思いを馳せる。
- ・無知や偏見が生み出す差別や排除の構造を理解し、自分の生き方につなげて考える。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	題名「だけど くじけない」について考えよう。		
	・題名「だけど、くじけない」から、考えたことを出し合う。	・「だけど」の前にどのような言葉が入るかを考えさせてもよい。	
展開	東日本大震災について知ろう。		
	・本文（P.18～P.19）の資料から東日本大震災の被害について知る。 ・人々が置かれた状況を想像し、出し合う。	・被害の様子や被災した人々が置かれた状況などを写真、資料、DVDを用いて具体的に示す。 ・震災や津波を実際に経験した子どもがいる場合は特段に配慮する。 ・3月11日を境に生活や環境が一変したこと、この教材には、その中を生きてきた福島の子どもたちの写真と文が掲載されていることを伝える。 ・「あたり前のことが、あたり前でなくなっていました」の言葉に着目させたい。	資料1 DVD
展開	福島の子どもたちの気持ちを考えよう。		
	・本文（P.20～P.21）から感じたことや考えたことをワークシートにまとめ、話し合う。	・じっと前を見つめる瞳の奥（P.21）にある思いを想像させたい。 ・多くの大切なものを失った悲しみや切なさ、そして、それらを乗り越え	ワークシート

展 開		ようとする子どもたちの生きる力に 思いを巡らせたい。	
	福島に対する偏見・差別について考えよう。 本文（P.22～P.24）から感じたことや考えたことをワークシートにまとめ、話し合う。 P.22の写真…放射性物質を持ち込まないように、粘着テープの付いたマットで泥や砂をよく落としてから校舎に入る P.23の写真…自分の名前が入った線量計を首にかけ、3か月の被ばく量を測定してもらう	- 放射能汚染に対する不安を抱えた中で暮らす子どもたちの思いに迫らせたい。 - 資料2を活用してもよい。 「福島という名前をやめたらどうだ」「福島と言う名前をあきらめません」等の言葉に着目し、福島に対する偏見や差別について、自分の考えをまとめさせる。 - 文中の「放射能汚染という恐怖」とは、放射線による被害のみならず、福島第一原発事故によって生じた福島への偏見や差別を含むといった多面的な捉え方をさせたい。	資料2 ワークシート
まとめ	「とても深い『ありがとう』」について考えよう。 本文（P.25）の言葉を読み、「とても深い『ありがとう』」に込められた思いについて、自分の考えをまとめ、発表する。	「とても深い『ありがとう』を知った」に込められた思いを、ここまでの学習とつなげて考えさせる。 - グループで話し合った後、全体化を図るのもよい。	ワークシート

だけど、くじけない

◇福島の子どもたちの気持ちを考えてみましょう。

◇福島に対する^{へん}偏見・差別について考えたことをまとめましょう。

◇「とても深い『ありがとう』を知った」という言葉に^{こめ}込められた思いを考えてみましょう。

名前
